

『開戦前夜の日中学術交流』（2021年4月30日初版発行分）正誤表

頁	行	誤	正
33	(36)	『吉川幸次郎 <u>著作集</u> 』	『吉川幸次郎 <u>全集</u> 』
34	(37)	同上	同上
40	世古堂	雅趣 <u>叢書</u>	雅趣 <u>蔵書</u>
41	隆福寺	六朝事績編類	六朝事 <u>迹</u> 編類
95	4	『宜春香質』	『載花船』
154	最終行	(東亜攷求会、 <u>一九二年</u>)	(東亜攷求会、 <u>一九二六年</u>)
192	(47)-5	自言以百五十元華幣得之、	自言以百五十元華幣得之、
201	末より6	湖北省中学堂	湖北 <u>府立</u> 中学堂
206	11	ちなみに「犬養君」は、～であろう。 の一文	207 頁末より3行目「窺える。」の 後ろへ移動。
217	1	横越 <u>慧日</u>	横 <u>超</u> 慧日
251	11	錢孫	錢 <u>稻</u> 孫
280	11	北平東城堂子胡同・中華公内	北平東城 <u>西</u> 堂子胡同・中華公 <u>寓</u> 内
295	(14)	訓読(全9行)	以下参照
296	7	論 <u>じ</u> ず、	論 <u>ぜ</u> ず、

295 頁 (正)

「東邦の纂述は、新義颯起す。鉛を懐にし槩を提ふるは、日に就り月に將む。殺青相聞こえ、歳ごとに万卷を逾ゆ、警れ其れ盛んなり。自頃海内承学の士、搜牢放軼にして、諏訪多聞なり。他山の用は、取材すること甚だ衆し。斯れ固り記荊の資る所、鞆寄を煩はす者有り。惟ふに此の土の諸家、購求して臧弃すること、多くは一時に在り。万本従ひて同じ。但だ独対に適するのみにして、聚めて之を観んとすれば、精なれども未だ博からず、蔽へども未だ周からず。其の全を取らんと欲するは、盖し亦た難し。稻孫行能似る無く、知見弘からず。自ら二十年以来を顧るに、心を講授に殫くす。衣を典して得ること有るも、挿架未だ違あらず。分別部居して、略ぼ新籍を余す。茲に謹んで其の所蔵を出だし、勅めて泉寿東文書蔵と為す。伏して願はくは文章の碩彦、縞紵の知交、名山二西の伝、大雅九能の雋、各おの秘笈を傾け、同に宝書を陳べ、悉く琳琅を挙げ、其の著録を助けん。將に顔家の簡を授けて、鮮卑を薄んぜず、臣向の藜を然やして、方に天禄に同じき見んとす。恭しく嚶引を成すこと、実に継声を企ふ。